

入學検定の所感 (二)

東京女子高等師範學校附屬小學校では一月二十六、二十七日に本年度の入學検定が行はれた。以下は検定に當られた方々の所感である。

尋一入學検定所感の断面

齋藤英夫

一

私は子供の思考判断ミもいふべき問題に就いて検定して見たのである。其の問題は次の二問である。

一、たけ子さんは脚をけがして早く歩くことが出来ませんから、今朝も學校へ早く歩いて來ました。

二、學校はきのふお休で誰も來て来ません、もし子さんはきのふ學校へ來て、皆さんミ面白く遊んで歸りました。

これを次のやうにいつて聞かせたのである。

「先生が今お話しをします。お話しの中におかしい所があれば、ミこがまちがつてゐるかいつて下さい」「一度でわからない子供には二度くりかへしてやつたのである。

二

私のこの問ひに就いて問ひの不明なものが大部あつた。判らないといふよりも、私より前に子供の記憶力を検定した方があるので、子供はそれさまちがつて、(まちがつたといふよりも、早のみこみしてよく聞かないらしい) 鸚鵡返へしに答へる者も可成り多くあつた。終始黙りこんで一言も答へず「まちがつてるませんか」「聞いても何も語らないといふ兒童もある。黙つてゐるからわからないのかと思つて「まちがつてゐませんか」「聞けば「まちがつてる」「口を聞きはじめる者もあつた。「脚をけがしてゐるから早く歩けない」「こはつきり答へる子供も相當に多くあつた。(今は夫等の統計に徴していふこは出来ないが) 然しはつきり答へる子供でも「脚が痛いから」「いふものが多くあつた。又「早く歩けない」「いふよりも單に「歩けない」「答へたものが多く、之では私として子供の思考判断を検定する上に満足はしなかつたのである。

滑稽と思はれるのは、(子供の心境としては尤もかも知れぬ)「お医者さんへ行つて繃帯をしていた」「脚が痛くても我慢して歩いて来た」「いふのもあつた。之は寧ろ女兒に多く、男兒は判らなければ判らない。ちがつてゐないと思へばちがつてゐないと思へるものが多くあつた。

三

第二問に關しては大體第一問に現はれた傾向と同様であるが、第一問よりも第二問の方が稍々成績が良好であつたやうだ。然し第一問の判らぬ者は第二問も判らないといふ共通性があつた。

「學校が日曜だといふのにこし」子さんが學校へ来るのはおかしい」「いふやうに、子供は大抵「日曜」「いふこをいつてゐる。中には「學校は休ですから行つてはいけません」「訓誡めいていふ者も、二、三名あつた記憶してゐる。稀に「こし」子さんは一人で學校へ来たのだから面白くない」「答へるものもあつた。

以上は此の種問題に關して検定した私の所感の一端である。御承知願ひたい。